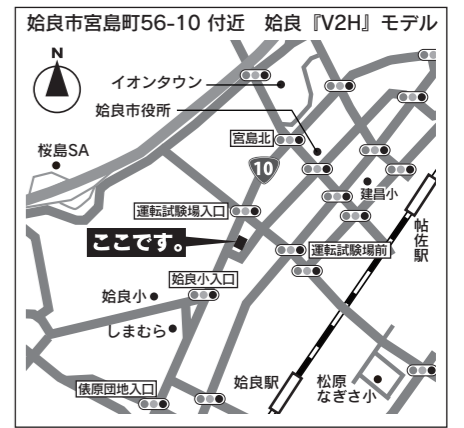


始良『H2V』展示場 公開中!



停電時、車から家へ電気を供給できる『V2H』システム搭載。感染症を提言できる循環空調システムと相乗効果のある設備。鹿児島に家族の日常と健康を守る家が完成しました。

2020年からは、自活エネルギー住宅の本格的なZEH(ゼッチ)の時代を迎えます。『V2H』住宅は、太陽光発電を軸に「自活エネルギー住宅」を実現。住宅とEV自動車とが連結し、家庭用蓄電池の10倍以上の蓄電能を持つEV自動車が、停電時等の家庭用電源としても機能します。

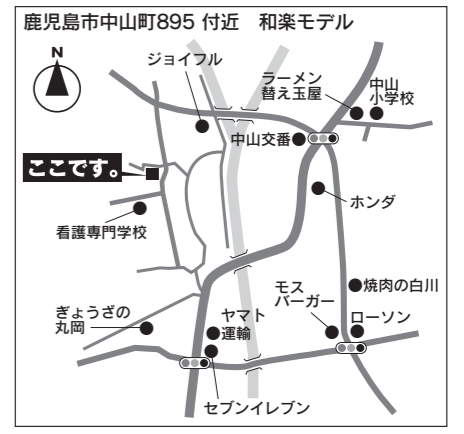
松下孝建設がご提案する近未来型の自活エネルギー住宅を是非ご体感ください。

和楽展示場 公開中!

ハイブリッド・エコ・ハートQ
「エアコン1台、全室低温空調暖冷房」

和楽
WARAKU

丁寧仕上げられた『和』の意匠は
静謐な美しさを
いつまでも『楽』しめる



鹿児島島の気候に適した高気密・高断熱と「循環空調」システムの「和」をイメージしたモデルハウスです。一般家庭用のリビングサイズのエアコンで室内空間のすべてが温度差なく、一年中を快適に過ごせます。高性能樹脂サッシと24時間計画換気で、結露の発生を防止、家族の健康と住宅の高耐久性を実現しました。

ZEH基準を標準クリアした外皮性能とハウス・オブ・ザ・イヤ-2013で大賞を受賞した公的にも認められた施工技術の粋。外装、内装共にこれまでの松下孝建設とは少し違う趣を感じてください。



薩摩川内市 新モデルハウス 建築中! 2020年11月 OPEN予定
(薩摩川内市中郷1丁目34-13)

住宅に関する資料等もフリーダイヤルにてご請求下さい。資料等をお送り致します。 0120-079-089

ひこうき雲

自動車はEV、電気は太陽光や風力などの再生可能燃料に置き換えられる。

管内閣総理大臣の2050年までに温室効果ガス0発言の根拠はこれだ!

脱炭素で石油燃料はどじろ変わる?

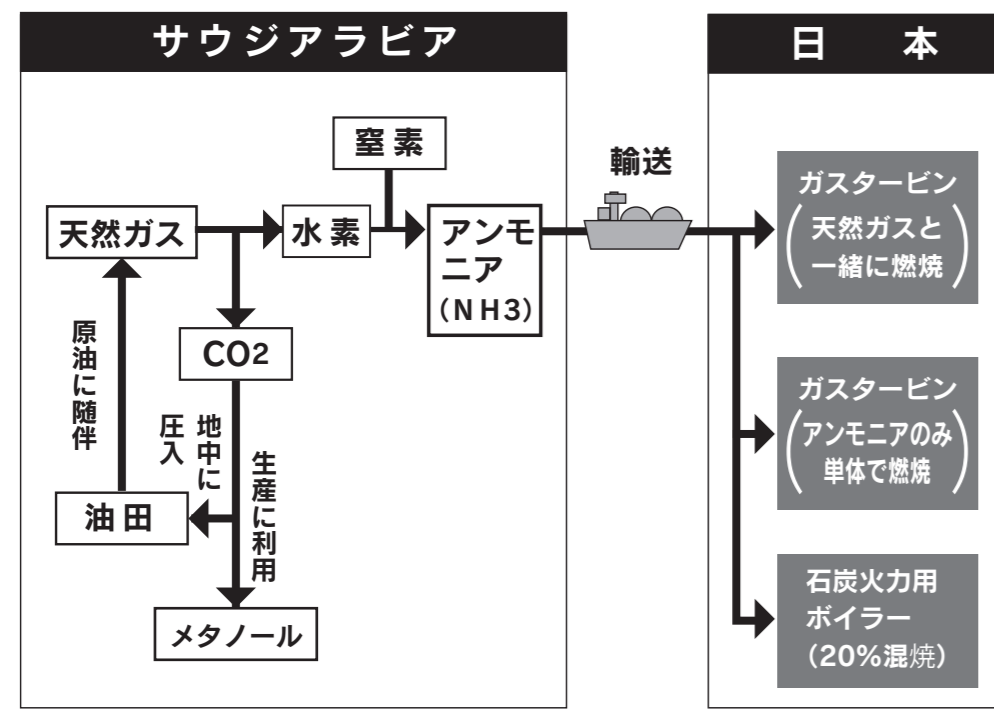
天然ガスからアンモニアを造り、火力発電燃料にする。

コロナ禍の世界で様々な未来予測が可能なプロジェクトは、停止しているような形跡がありますが、脱石油の流れは新たな形で日本のイノベーションによって動き出しつつあります。

その一つは、石油や褐炭から水素を造り、活用する方法ですが、水素は運搬が難しく、それが難点になっていました。

図・1のように水素に窒素を加えることでアンモニアにして安定させて運搬し、アンモニアそのものを燃焼させて、発電などに使う方法が考え出されています。これは「日本エネルギー経済研究所・サウジアラビア国営石油会社「アラムコ」と三菱商事等が共同で行う技術開発で、天然ガスからアンモニアを造り、発電設備の燃料として使うという新しい発想で「脱炭素」燃料をサウジアラビアで生産し、日本に運搬するという実証実験に着手しています。実証事業は、

【脱炭素】燃料(アンモニア)のサプライチェーン 図・1



水素と窒素の化合物であるアンモニアを燃焼させても二酸化炭素(CO2)は、発生しません。アンモニアの製造段階では、CO2は発生し、製造段階のCO2は、回収して一部は化学製品のメタノールの原料として再利用し、残りは、サウジアラビアの製造工場の近くの油田に運び、原油生産を増やすために地中に密閉注入します。

このアンモニア燃焼は、現状の石炭火力発電所でも有効に活用でき、石炭火力発電所でアンモニアを20%混入して燃焼させるとCO2の発生量を20%減少させることが出来ます。

日本エネルギー経済研究所の試算では、石炭火力にアンモニアを混ぜて発電した場合、発電

資源の有効活用で、産油国の将来も考えた新技術!

菅首相は、所信表明で2050年までに温暖化ガス排出ゼロ表明をしました。再生エネルギーの導入拡大と共に、原子力発電などが考えられますが、石油燃料からの全ての代替は限界があります。

サウジアラビアの精油所から出る、付加価値の低い石炭残渣を原料にすれば、年間3000万トンの脱炭素燃料が生産可能で我が国の電源の10%を賄える規模になります。サウジアラビアと日本は、実証実験で得たデータを元に、アンモニア燃料の大規模生産や日本やアジアに運ぶサプライチェーンの整備を検討し、30年代の本格利用につなげたい考えのようです。

原油や天然ガス、石炭などの化石燃料から、二酸化炭素を取り除き、あるいは有効活用し、その中に含まれる水素を発電や燃料電池自動車等の燃料として安全に活用できれば、化石燃料を使い続ける事が可能になります。日本の化学・エンジニアリング・石油関連会社は、石油・天然ガス関連事業で実績があり、サウジアラビアのアラムコと提携し、脱炭素燃料の普及と新しい原油の活用を築いています。ここで考えておかなければならないのは、クリーンなエネルギー

日本の優れた環境技術は水素を通じて世界に拡散。

日本政府は、水素社会の実現に向けて、2030年までの行動計画を策定し「水素基本戦略」を策定しています。欧州連合(EU)は、2050年までに4700億円の投資(57兆6000億円)の水素戦略を発表するなど、水素を巡る競争が本格化しつつあります。

サウジアラビアは、今年のG20(20カ国・地域)の議長国として、11月の首脳会議で、低炭素を進めながら化石燃料を有効に活用する「炭素循環型経済」を打ち出す見込みで、日本とのアンモニア燃料の実証実験はその中核技術として紹介されることになるようです。

菅首相の排出ガス0表明もこのような我が国の水素関連の技術力によるものです。松下孝建設もまた、常に最新の住宅建築・温暖環境技術で、皆様により快適でより付加価値の高い住宅を提供して参ります。